

No.176

# 公民館だより

令和4年11月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 丹後由良の魅力を愛でる

### 「花と果樹」

由良地区公民館長 千坂 幸雄

「丹後由良には魅力がいっぱい」その中でも花と果樹は丹後由良の特長の一つである。

4月には「桜」、由良駅前通り、はまの子グラウンド周辺、由良神社の上社があったであろう場所にあるしだれ桜、奈具神社の桜など多くの花見所がある。「三つ葉ツツジ」由良ヶ嶽2合目から3合目にかけて三つ葉ツツジが群生している。4月上旬から中旬が見頃である。是非、登って見ていただきたい。

5月には「芝桜」、各家庭でも植えられているが、今年の6

月に公民館事業で由良駅前通りの桜の木を囲むように皆様に植えていただいたので、来年が楽しみです。「ミカンの花」、この

花が咲く頃には丹後由良はミカンの花の香りでいっぱいになる。「オリーブの花」、5月から6月にかけて小さくかわいらしい白い花をいっぱい咲かせる。丹後由良の至る所にオリーブが植えられており、オリーブを育てる会でも花の鑑賞会を開いている。開花期間が1週間と短い。

8月から9月には「サルスベリの花」が美しく咲く。浜野路・

港地区の墓地周辺に多く植えられている。

10月には、「キンモクセイの花」が甘い香りを届けてくれる。由良の里センターの通路である坂道の両側はキンモクセイの並木道であり、この時期には行き来して香りを楽しみたい。

11月は「モミジ」、もみじ公園は整備次第で京都府でも有数の紅葉狩りの名所になる。もつたいなので是非、紅葉狩りに来ていただきたい。

果樹については、ミカンとオリーブの他、「柿」がある。石浦地区ではミカンだけではなく柿も販売しています。風の通りが良いところでは、干し柿ができる。「ザクロ」の栽培に適している。由良の里センター周辺の家庭等ではザクロの木を植えている。10月に収穫時期を迎える。小さな赤い実がぎっしり詰まった果実で大変甘い。この実を食べると体の調子が良くなる。そのまま割って食してもいいが、絞って種を取りジュースにしたものを砂糖は入れずに柔らかく

煮詰める。注意しないと煮詰めすぎて堅くなる。ジャムになる手前で火を止めるくらいが良い。冷めると堅くなってくる。ジャムのように使ったり、焼き肉につけたりするとおいしい。イラン料理によく使われている。

丹後由良の魅力は、狭い土地に由良ヶ嶽・由良川・日本海と三拍子そろい、色々な作物を美しく、おいしく育てる良い気候や地理的条件があればこそできることだと思ふ。花と果樹の栽培にすごく適している。

この環境を生かして色々なことにチャレンジしてみよう。

今回は、花と果樹についてだったが、10月2日に行った「由良の歴史ウォーク」には京丹後市の方や与謝野町の方が参加して、「由良地区には魅力のあるところがいっぱいですね。」と感想を述べられていた。



# 行事報告

主事 山下まさ代



## はまの子グラウンド 除草作業

実施日 9月4日(日)

自治連、松寿会、子供会連絡協議会、観光組合、浜野路夕月サロン、宮津市ターゲットバードゴルフ協会、グラウンドや体育館を使用しているサークル、そして子どもたちも含む多くの地域の皆さまにお世話になり、グラウンドや体育館回り、遊具の周辺が見違えるほどきれいになりました。ありがとうございました。



終了後、さつそくキャッチボールをして遊ぶ子供たちの姿が見られました。

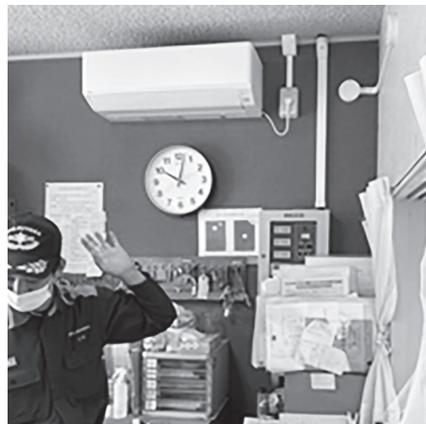
## 避難訓練 実施

実施日 9月6日(火)

由良地区公民館の消防設備の設置場所及び取扱を熟知し、万一火災が発生した場合、利用者を安全に避難させ、建物被害を最小限にいとどめることを目的に毎年実施しています。

今回は午前10時、1階調理室から出火し、「火の回りが早く全館に蔓延する恐れがあり、人命に危険を及ぼす恐れが強い」という想定で、利用者への周知と避難誘導する者、火元確認をして初期消火をする者、全体を把握し消防署へ通報する者と3人で役割分担をして行いました。当日、公民館を利用していた7名にも協力していただき無事避難することができました。最後に消防署職員さんから講習をいただき、消火器の豆知識の学習を行いました。

今後も定期的に実施していきたいと考えています。



## 由良郷土資料館く由良湊ウォーキング

実施日 10月2日(日)  
参加者 8名

昨年度実施した北前船ウォーキングの第2弾として実施しました。

峰山町、与謝野町からの参加者(2名)があり計7名が、加藤正一氏の話を聞きながら3時間の由良の歴史を学習しました。(2時間の予定であったが質問も多く時間延長)



如意寺(足元には凝灰岩)



新 由良郷土資料館



由良神社



上社があったと思われる場所  
(現在は大きな枝垂れ櫻が植栽)



下社があったと思われる場所  
(踏切の近く)

雲一つない秋晴れの下、金木犀がかおる中をウォーキングしながらの学習会。参加者が少なく非常に残念でしたが、興味深い話や貴重なものを見せていただき、とても充実した日となりました。

参加者からは、

「説明も分かりやすく運動しながら（ウォーキング）良い時間を過ごすことができました」

「大変いい勉強になった。たくさん由良の歴史の勉強ができました。一度聞いただけでは覚えきれないので何度かあるとうれいです」

「次回を楽しみにしています」と感想もいただき、次回の計画の参考にさせていただきます。現場を見ながら話を聞くとよくわかり、心にも残りました。全身を使っっての学習は爽快です。次回はずいぶん多くの方に参加していただき、丹後の由良を探索しましょう。



照国稲荷神社（港地区）



不動明王像と蜂子皇子の船出の碑  
すぐ横に北前船由良湊がある



北野御膳宮（港地区）

# 庄内由良との交流

飯澤 登志朗

庄内由良との交流は、今から約45年前から始まる。

昭和53年(1978年)庄内由良の文化財愛好会会長佐藤儀助氏が蜂子皇子の伝説を辿り、丹後由良を訪問、当地には「蜂子皇子の伝説」が全くない事を聞いて帰郷されたことから始まる。昭和55年、丹後由良の有志数名が庄内を訪れ詳しく伝説の説明を受ける。

さらに、昭和57年庄内由良から旅行の途中丹後由良訪問を受ける。そして昭和60年宮津市で全国ジュニアヨット大会の開催を契機に庄内由良自治会長を団長に16名が丹後由良を訪問「庄内由良・丹後由良友好の浜」宣言、鶴岡市・宮津市両市長のメッセージ交換等あり、以後相互訪問

や小学校児童の作品交換等交流が開始し現在に至っている。

当初、訪問団に含まれた児童は児童会役員のみであった。平成5年庄内由良開村1400年を記念して招待されたのが最初であった。夜行列車の利用である。平成18年から児童数も減少し全員の参加になり、平成24年からバス利用となった。

この交流の基本ともいえる蜂子皇子について、公民館だより129号に山下憲弥氏が詳しく投稿されているが少し触れてみたい。

蜂子皇子は、第32代崇峻天皇が曾我馬子と対立暗殺された。第1皇子である蜂子皇子は身の危険を感じ従兄の聖徳太子や重臣の助力を得て都を脱出し遠く

丹後の国由良にたどり着いた。

そして由良の船頭達を連れて船旅に出発する。庄内の八乙女海岸沖まで来ると荒波にそそり立つ断崖絶壁と巨岩が目前にあり、その岩の上に八人の乙女が笛の音に舞いながら皇子を招いている。皇子は不思議に思いつながら上陸し滞在する。

ある日、東の山並みを見ると紫の雲が漂っていた、いつの間にか飛んできたのか目の前に三本足の鳥が羽ばたいていた。鳥に導かれ付いて行ったところが羽黒山であった。

蜂子皇子は、滝に打たれ幾日も幾日も難行苦行の修行をされて山頂に出羽神社を建立、この時をもって出羽三山神社ご開山の年とし、蜂子皇子を「御開祖」と仰いでいる。

私も複数回交流に参加しているが特に感じることもある。それは庄内由良の方々の人としての温かみではないだろうか。初対面と思えない柔らかさ、親し

みさである。

自然に囲まれきれいな海に接するふる里、由良という地名、そして蜂子皇子に纏わる歴史的な繋がりは将来に亘って受け継いでいってほしい。

一つだけ残念なことがある。小学校も児童の作品を交換し個々には文通を続けていたのに平成25年に宮津市立由良小学校が閉校し、平成27年には鶴岡市立由良小学校が閉校したことがある。

学校閉校やコロナ禍等で途切れていた相互訪問が今秋再開されること、盛会裏に交流が終了するようお願いしたい。



# 脇の金毘羅さん

濱 本 喜 彦

昨年十一月に発刊された第173号の公民館だよりに飯澤翁が脇地区の金毘羅神社について寄稿されておりましたが、奇しくも今回私も同じ内容の項目を寄稿することとなりました。

いわば去年の飯澤翁が書かれた項目の実証になるかと思えます。昨年の第173号の公民館だよりをお持ちの方はその号をあらためてお開きになり、前回の飯澤翁がお書きになった項目の再確認をしていただけると誠にありがたいです。つまり、前回飯澤翁が書かれた項目の実際の現場確認・報告にあたるのが、今回の私の寄稿内容だと思っただけいたら幸いです。また、現在宮津市ホームページで『公民館だより』と検索していただく

と創刊当初からのバックナンバーを全て閲覧することができずのでもし、173号をお持ちでない方は、併せてご利用してみてください。

さて、昨年の令和3年度私は脇地区の自治会長に就任して居りまして、わたくしが当時提示した令和3年度の事業計画の中に金毘羅神社の一部修繕事業がありました。実際、補助金申請にとりまう宮津市教育委員会や丹後広域振興局との、修繕箇所<sup>ハシメ</sup>の現地視察・現場立会が発生し、昨年令和3年6月の金毘羅さんの現場立会を行った時のお話をお書きしたいと思えます。当時、減多に無い機会でしたので内部に奉納されていました通称舟札と言われるものを確認しよ

う、という話になり。拜殿の中に納められていた何枚かの札を取り出し確認を行いました。その時の模様の写真がこれらです。



この札に書かれている縁起文を書き出してみると。以下の様になります。(以下原文のまま)

桃嶋金毘羅権現古ヨリ勸請有シ  
見エテ往古ヨリ船中安全ノ為講  
ヲ結テ尊信スト雖舊記無テハ其  
権興知ヲナシ今世ニ残リシ唯講

ノミ也、抑此嶋ハ澳受ノ小嶋ニ  
 テ風波烈シク元来巖松ハカリ  
 (ノ) 嶋ナレハ神祠<sup>ホコラ</sup>數度烈風ニ  
 破壊シ終ニ無トナリシ、後ハ但  
 嶋ヲノミ神躰トシ尊崇スルナリ  
 於是<sup>コト</sup>近來有志ノ輩相謀テ神祠ヲ  
 再興セント発起ス、熟思<sup>ツラツラ</sup>フニ此  
 嶋ハ海中故風濤荒キ時ハ參詣ナ  
 ラス粵<sup>コト</sup>同シ字ノ山アリ依テ神祠  
 ヲ此山ニ移シ奉レハ假今風濤凜  
 トトモ志シ至レハ參詣モ自在ナ  
 リ、陸地故<sup>オソツカ</sup>自ラ庭艸結縁ノ徒モ  
 多ク利益廣ガラン〔フ〕ヲ想ヒ  
 改メ勸請シ奉リ、殊ニハ  
 御領主君御武運長久及ヒ村内安  
 穩船中幸福威力祈奉所也、仰願  
 者  
 由良山金毘羅尊神・諸從神、吾  
 等カ正信ヲ哀愁納受シ和光同塵  
 ノ奇特ヲ施シ賜リ所願成就圓滿  
 セシメ給、敬白上件神祠再建ノ  
 因由ヲ不朽ニ傳エテ為其梗概ヲ  
 記スル者也、十方施主災障消除、  
 福寿増長

(かっこ) は原文にはない

【意訳】

桃嶋金毘羅権現は、古来より  
 船中安全のために講を結んで信  
 仰しているが、(神社の) 古い  
 記録はなく由緒は不明であり、  
 今はただ講のみが残っている。  
 そもそもこの島は、沖合いの小  
 島のために風波が激しく、元々  
 は巖と松ばかりであり、神祠<sup>ホコラ</sup>は  
 何度も激しい風を受けては破壊  
 され、終には無くなった。その  
 後は、桃島自体を御神体として  
 尊崇する形となった。  
 そこで、近頃には有志の者たち  
 で計画し、神祠を再興しようと  
 発起した。つくづく思うに、桃  
 島は沖合にあるために風や波が  
 荒い時には參詣することができ  
 ない。ここに同じ字にある山に  
 神祠を移せば、もしも波風が  
 激しい時でも自由に參詣ができ  
 る。また、陸地故に自然と庭の  
 草木や、結縁を結ぶ人々も多く  
 なり、利益も広がるであろうこ  
 とも思い返して勸請した次第で  
 ある。特に、領主の御武運が

長久に及び、村内の安穩や船中  
 の幸福(安全など)を祈り奉る  
 所である。

由良山金毘羅尊神・諸從神へ  
 仰せ願うことは、私達の正信を  
 哀れ愁いてお聞き入れなされて、  
 その靈験を(私達へと)施しに  
 なり、所願を十分に成就させて  
 下さい。敬白 前述の神祠再建  
 の由緒をいつまでも伝えて、そ  
 の大略を記するところである。  
 全ての施主の災障を消し除き、  
 福寿を増長することを願う。

以上概略をお伝えするところ  
 いった内容の文章がこの舟札に  
 はかきこまれており、さらに、  
 飯澤翁がお書きになっておられ  
 た。文久2年(1862年)と  
 いう年号は確かにこの舟札には  
 大きく書かれており、何より驚  
 かされるのは、当時の金毘羅神  
 社の最大スポンサーが田辺城主  
 牧野豊前守であり、さらに当時  
 の由良の庄屋孫兵衛・長左門・  
 伊右衛門とはつきり書かれ(あ

と当時の由良の年寄・世話方衆  
 が列記されています) ています。

つまり、この舟札が示すもの  
 は、当時の金毘羅神社(金毘羅  
 さん)は田辺城主の殿様も巻き  
 込む信仰範囲の広さにあります。  
 これらは、いかに当時の人々に  
 金毘羅さんが信仰されていたか  
 を示す貴重な資料であるといえ  
 ると思います。

最後に、今回の一連の寄稿の  
 なかで私が強く感じたことは、  
 脇地区には、この金毘羅神社を  
 はじめ式内奈具神社、岩穴稻荷  
 神社、荒神社、そして薬師さん  
 と小さな地区としては比較的多  
 くの神社仏閣が存在し、それぞ  
 れの縁起物語を持ちながら現在  
 まで肅々と受け継がれています。  
 これらは、もちろん他の地域で  
 も同じことが言えるのですが、  
 各地区の一人一人が何代もかけ  
 て肅々とさりげなくあたりまえ  
 のように係わってきた証である  
 と考えると、あらためて頭がさ

がるおもいになります。現代に  
生きる我々もその累々とした流  
れの中の一員であると再認識し  
てこれからの日々を過ごして行  
きたいと思うしだいです。



## 就任のご挨拶

由良子供会連絡協議会 会長 堤 郷介

道端の柿の実が色づき始め、  
秋を感じる今日この頃です。

由良地区の皆様には、日頃よ  
り由良子供会連絡協議会の活動  
に對しまして、ご理解とご協力  
を賜り誠にありがとうございます。

本年度、由良子供会連絡協議  
会の会長を務めさせていただ  
いております。由良地区上石浦に  
移り住み早三年が過ぎ、越して  
きたと同時に生まれた次男は地  
域の皆様のご支援ご協力のおか  
げですくすくと育ち、兄妹、親  
ともども楽しく過ごせており、  
改めて心から感謝申し上げます  
とともに、会員及び地域の皆様か  
らのご支援を賜りながら、微力  
ではございますが地域の皆様の  
力になれる様、精一杯努めてま  
いりたいと思っておりますので、よ  
ろしくお願いいたします。

昨年度まではコロナウイルス

の影響により、各種行事が取り  
やめとなっておりましたが、本  
年度は数年ぶりに打ち上げ花火  
が実施され、子供会においても  
子供花火と灯籠流しが実施出来  
たことは大きな前進でした。こ  
れは自治連合会役員様、各地区  
子供会会長様他皆様のご尽力の  
賜物です。この場を借りて御礼  
申し上げます。

子供達においてはコロナ禍で  
の感染対策を講じた上で運動会  
等の各種行事が執り行われ、そ  
れぞれ楽しい時間が過ごせてお  
ります。

本協議会の事業については、  
現在の状況下ではまだ飲食を共  
にした行事を開催する事は難し  
く、遠足やバーベキュー等は実  
施できておりません。  
しかしながらコロナウイルス

に關しては予防接種を含め日々  
状況が変化しており、感染した  
際も対処療法ではなく治療薬が  
出始めていることもあり、今後  
は日常が戻ってくるものと子供  
たちと共に信じております。

今後も行事に關しては各地区  
の子供会会長が中心となって計  
画していこうと考えております。  
さて、ここ数日で気温が一気  
に下がり夏が終わったことを肌  
で感じております。急激な気温  
の変化により体調を崩しやすく  
なる時期ですが、健康を害する  
事の無い様、ソーシャルディス  
タンスを基本として、各種行事  
に取り組んでいきます。

現在、新型コロナウイルス感  
染症に對するワクチンはオミク  
ロン株対応の物にかわり、かつ  
五歳児より接種が可能となりま  
した。しかしながら、あくまで  
も接種は努力義務であり、事情  
により接種出来ない子供たちも  
いること考えております。今  
後、ワクチン接種が進み、行事  
を実施出来る世様になったとし

でも、これまでと変わる事のない感染症対策を念頭に取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、この困難な状況を地域の皆様と共に様々な変化に対応しながら、乗り越えていきたいと思っております。コロナ禍で、子供会合同で

## ご挨拶

栗田小学校PTA

会長 山本隆教

由良地区の皆様には、日頃より栗田小学校PTAの活動に對しまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本年度、栗田小学校PTA会長を務めさせていただくことになりました。微力ではございますが、精一杯取り組んで参りたいと思えますので、何卒よろしくお願いたします。

栗田小学校は、由良地区より5名、栗田地区より6名の合計

の全事業実施は困難な状況ではございますが、対策を講じて各地区でひとつでも多く事業実施に取り組めればと願っております。今後とも地域の皆様の本協議会の活動への引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いたします。

運動会が開催できましたことは、とても大きな成果だったと思えます。

さて、本年度の栗田小学校のPTA活動のスローガンを「何にでも挑戦し、遊び、学び、思いやる心を育もう」とさせていただきます。

チャレンジ精神が旺盛で、何にでも意欲的に取り組むことが出来る子は、あらゆる面でぐんぐん伸びていきます。子供達には、失敗を恐れて行動せずにいるよりは、何度でも失敗して立ち上がる「挑戦力」を身につけてもらいたいという思いから、このスローガンにしました。

周りの大人の一言で子供達は不安に打ち勝ち、一歩前に踏み出す勇気を手に入れることが出来ると思えます。また、思いやりの心をもってほしいというのは、多くの大人が抱いている願ひではないでしょうか。相手がどのような気持ちか考える力や共感できる力が必要だと思えます。我々大人が、周りに優しい

気持ちをもって接することが、子供達の思いやりの心に繋がると思えます。地域の皆様には、是非とも子供達へのいろんな力を育むための声かけをお願いいたします。

今後もコロナ禍での学校行事、PTA活動については、特に今年最終学年となる6年生にとつては、下級生と共に思い出に残る学校生活となるよう、予防対策を講じて事業実施に取り組めればと願っております。

最後になりましたが、いつも子供達の登下校を見守っていただいています地域の皆様、学校図書書の整理・本の読み聞かせの他、学校校庭の除草など様々な活動にご支援・ご協力をいただいております学校運営協議会の皆様、由良地区の防犯パトロールなどお世話になっております由良駐在所様に感謝申し上げます。今後とも地域の皆様の本PTA活動への引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いたします。

# 由良が光り輝いていた時代 (19)

由良の歴史をさぐる会 加藤 正一

## 「丹後由良北前船の大船主」

### 米屋四郎左衛門(磯田)家

由良の米屋四郎左衛門家は丹後に於いて廻船業の大船主として三本指に数えてもおかしくなく、古くからの北前船(廻船)の船持ちである。資料により知り得た歴史記録をまとめてみた。

舞鶴市史において、後年大船主と云ってもよい米屋四郎左衛門家は、田畑持ち高は天明三年(一七八三年)7・6石。嘉永三年(一八五〇年)9・5石の百姓でこの石高10石足らずの農業経済力で船を取得することはとうてい考えられず、由良川の河口という河川・海上交通の要

衝に立地していたことから、商

品・貨幣経済の発展に順応して、

両丹地方内陸部と若狭沿岸地方との間の物資輸送に、小船を操って乗り出していったコースをたどったものと思われる、とある。

嘉永三年(一八五〇年)には9・5石の百姓であったが、既に廻船船持ちではあった。浜田の清水家客船帳に文化十四年(一八一七年)記載されている廻船、永寿丸を所有している。後述に詳細を記述する。

内陸部と若狭沿岸地方との間の物資輸送に、小船を操って乗り出していったコースをたどったものと思われることについて、裏付け資料が船約文書(福知山教育委員会蔵)の「一札之

事」元文二年(一七三七年)由良川舟持ち(由良川舟運船持ち)人数二八人の中に四郎左衛門名があり、米屋四郎左衛門の可能性が高い。(詳細は公民館だより第一六三号参照)

古文書には由良川水運に関わることしか記されていないが、由良河口には米蔵が設けられ、由良川周辺の田辺藩の税の米が集められ、小浜経由大阪に送られたことは次の関係資料から明白である。

丹後国加佐郡寺社町在旧記(享保一六年「一七三一年」)に田邊役所の為由良の蔵に年貢収納総石高壹萬貳千余石(一二〇〇〇余石)せしめ若州小浜へ運送す。これらの米を小浜に運んだのはこれからも解るよう状況から云って由良の船持ちの可能性が高い。運送に関わった舟は五〇石〜一〇〇石の大きさと考えられる。

またこの古文書には「売船その数百三十拾艘に及べり、大海の最中に出れば磁石をもって方格(方角)を見合わせ越前、越中、加賀、能登、出羽の庄内、秋田、佐渡ヶ島、西は因幡、伯耆、出雲、岩見、長門、上関、下関津々浦々へ入船して思い思いに商売す。」

このことから由良の川船舟持ちはこの時代から、海運業が利益を生むことは当然認識していたことが考えられる。由良川水運で資金を蓄えた船主は当然のように海運に乗り出したものと考えられる。小浜へ米を五〇石船で運ぶことにより海運の経験技術を取得し、また小浜への行き返りに物を売り買いすることとで、商売のコツを取得したに違いない。その一つの証拠として、由良をベースに由良では取れることのない石、神社の参道等でどこでも見かける緑色凝灰岩が由良川地域に運ばれてくる。当然代金を払い持ってきて売りさばいたことであろう。

またこの古文書には「売船そ

文政十二年 初「江戸へ」

記録上由良の船主として初めて江戸へ行った船・磯部丸（700石九人乗り）。田辺藩は文政十二年（一八二九年）の江戸藩邸類焼のとき、その再建に国元から木材を運搬にすることにしたが、これに用いられたのは由良村の米屋四郎左衛門手船「磯部丸」で、米屋は運賃として同船の積高一石につき銀一二匁五分の割で銀八貫七五〇匁（約一二九兩〓約1300万円）を受け取っている。初めての江戸までの往復航海に於いて高いのか安いのか？

再び江戸へ（天保五年・八年）

天保の大飢饉に際し、福知山藩では幕命により備荒用貯穀を天保五年（一八三四年）と同八年の二度江戸へ回送したが、この御用にも米屋の持ち船があった。回米に関する同四年の福知山藩からの聞き合わせに、米屋は船頭の一札を付して返答

し、運賃は銀九貫二百四十匁（一四四兩）を要請、その支給は船積み時と江戸着船時に分けて、それぞれ半額ずつされるように願ひ出ている。回米は川舟で由良川を下り、栗田で海船に積み込む旨を応答している。同所は入海になつていて波静かなため、由良船の係留や貨物の積み替え場所となつていた。（舞鶴市史）

米屋四郎左衛門から福知山藩へ

御聞き合わせ 詳細

「丹後に生きる京都の人びと」

（三省堂）

御聞き合わせの覚

一、此の度福知山御城米 御公儀様え御回米につき、私船御雇につき御尋ねの趣左に

御聞き合わせ候

一、江戸表え着岸、小船にて御蔵入れ相なり候はば壺石に

拾五匁づつ下さるべく候。

浜渡し水揚げに候はば壺石

拾四匁づつ下さるべく候

事。但し右の御定め〇元にて

福知山相場にて半銀御渡し、江戸表着船の上同所相場にて残りは船頭えお渡し下さるべく候こと。尤御請合証文の内え書上げ申すべく候。

一、千七百俵積みと申し上げ候えども 御公儀様御大切の御回米につき右の内二十石御減らし、一六五〇俵積み

に成し下さるべく候。石積

六百六拾積みと御定め下さ

るべく候。但し外に御上乗

り壺人、船頭ども飯米は別

に積込み申すべく候事

一、当所川船にて三河より栗田

浜え着船候はば米請取り大

船え積込み候事。但し雇舟

差し登り候儀其の御役所に

て何の御かまい御座なく候

事

一、四斗俵四斗壺升に御計り壺

俵に御直し下さるべく候、

右込みにて目溢れ惣体の欠

け減り弁じ申すべく候。但

し貫目は元目より三百目づ

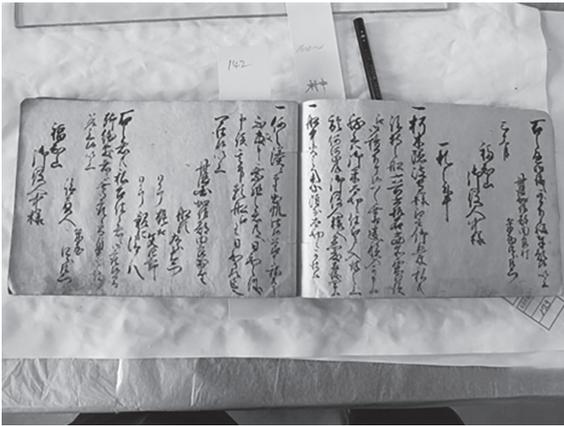
つ御用捨下るべく候事

一、御船雇極り候はば船御見分の儀此方より御注進申し上げ御見分受け候事。尤も此の度も一応御見分成し下さるべく候。

一、正月二五日迄は御極め御座なく候ても手附銀船うわかし申さず候。夫れ過ぎ候はば前借りとして壺貫匁御渡し下さるべく候。夫れより二月五日過ぎ御回米御止めに相成り候はば前借り御流し下さるべく候。

一、御城米の儀故 御公儀様御目印日の丸御幡御渡し下さるべく候事。右の通り相違御座なく候。尤も是れ迄御回米等相勤め候例もこれ有るべく仰せられ候えども、御回米の儀は近頃御座なく、先四郎左衛門代には御回米も相勤め候儀もこれ有り候えども、年久しく相成り候事ゆえ一向

事。但し右の御定め〇元にて福知山相場にて半銀御渡し、江戸表着船の上同所相場にて残りは船頭えお渡し下さるべく候こと。尤御請合証文の内え書上げ申すべく候。



船頭の一札  
 (府立丹後郷土資料館蔵)

例も相分ならず候えども、  
 今度の儀其の 御役所には  
 御例も度々御座候儀如何様  
 とも御指図次第御回米の儀  
 請け合い申し上ぐべく候間  
 仰せ付けられ下さるべく  
 候。以上

天保四年十二月

丹後加佐郡由良村

米屋四郎左衛門(印)

福知山

御役人中様

奇録帳(磯田家文書)

天保二年正月(一八三二)



その他

- 弘化四年(一八四七)に油屋職を入手し、両丹地方から桐実を仕入れて桐油を製造し、これを佐渡、新潟、下関、大阪にまで販売した。桐粕は出雲地方の綿作肥料として売却。
- 嘉永五年(一八五二)には分家に船宿を開業させる

大船建造

- 文政十一年(一八二八年)に「磯部丸」(七〇〇石積)を建造。二十一年後の嘉永二年(一八四九年)造り替えている。

この経費は

船体 金五四七両余り  
 諸船具 金二五八両余り  
 計八〇五両余を支出している。  
 同船の元治元年(一八六四年)における収支は、

利益金・八二七両余り  
 諸雑金・三八八両余り

差し引き 純利益四三九両余り  
 (「磯田家文書」舞鶴市史)

米屋四郎左衛門家衰退

理由は分家の子孫中西衛氏によれば、「持ち船が難船したため」と言い伝えられている。

その関係資料と思われる舞鶴市史通史によると慶應四年八月、由良村の海運業者某が、海難のため二隻の船を失ったとき、一四〇〇〇両の積荷の弁済要求をされたが、その債権者の一人である綾部藩内の某が700両の木綿代金分として、差し押さえを要求したときには、維新政府は一部の債権者に、弁済の先取りをさせないために、田辺藩

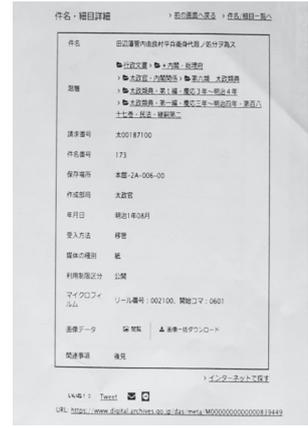
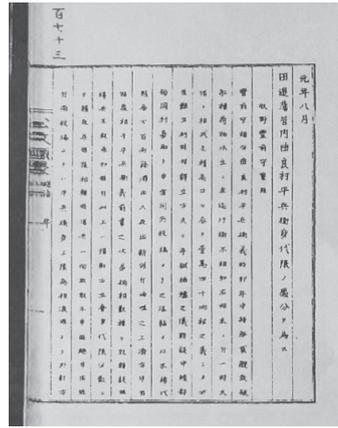
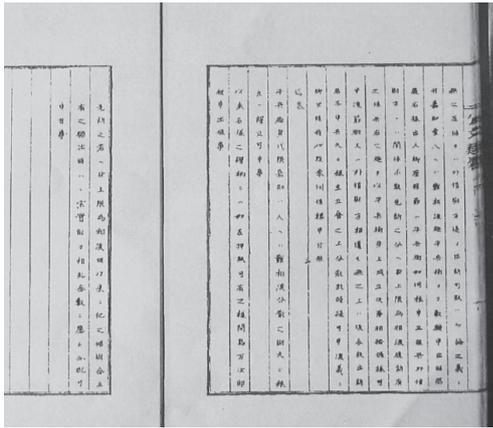
に「身代限ノ処分を申し渡し、そのむね藩庁も請書を提出した事件があつた。」(太政類典)このように、他藩領にまたがる事件については中央政府の指示に従うことになっていた。(舞鶴市史)

太政類典

国立公文書館で調べてみた。

由良村の海運業者某は以下の資料(次ページ写真)であり、子孫中西衛氏が云われたことと符合する。この遭難を「日本氣象史料」原書房で調べてみた。

この年の暴風雨は少なく、岩手県災害年表によると六月二十三日大雨、二十四日大風雨とあり、この船は木綿を積んでおり下り(北海道方面)北前船である。(木綿積代金を綾部藩内の某が請求から一部貸積み)記録氣象事象と時間差があるが、難船原因として考えられる暴風雨である。



米屋四郎左衛門寄進 「燈籠」 大川神社・奈良神社 各一對



奈良神社 文久二年(一八六二)



大川神社 嘉永五年(一八五二)



梵鐘 如意寺 文政六年(一八二二)



四郎左衛門家跡地 飯尾醸造工場前市道を隔てた舞鶴方向斜め向かい(現空き地、売り地)



上図 梵鐘刻印 施主 磯田四郎左衛門 山田源左衛門 中西善兵衛



安政六年十一月六日(一八五九)



四郎左衛門母寄進 千手観音(観音堂内)

下記一覽表に米屋四郎左衛門家の持ち船は慶應三年で終わっている、清水家の客船帳は明治に入っても続いて由良の船も入船の記録が明治に入っても二十二年頃まで記されている。米屋四郎左衛門家の持ち船が記載されていないのは、前述の二艘難船によるものかとも思われる。しかし明治に入ると、北前船は港々に入港せず、主な港しか寄港しない船も多々ある。

### 磯田家文書

衣装ケース約一箱、京都府立丹後郷土資料館に磯田家から寄贈されている。又、一部の古文書が宮津市教育委員会に保管されている。ここに記載した古文書の資料等はその一部である。今後北前船を研究される方はこれらの資料を参考にされたいと考へる。

年号	西暦	船名 新潟県出雲崎泊屋客船帳	船名 島根県浜田清水家客船帳
文化 8年	1811		伊勢丸
文化11年		伊勢丸	
14年	1817		永寿丸
15年	1818	早福丸	早福丸
17年		永寿丸	
文政 4年	1821	伊勢丸	
5年	1822	栄福丸	栄福丸
6年	1823	磯部丸	磯部丸
7年	1824	永寿丸 磯部丸	永寿丸
11年	1822		磯部丸
天保 2年	1829	磯部丸	
3年	1832		磯部丸
4年	1833	栄福丸	栄福丸
8年	1837	久宝丸	久宝丸
9年	1838	栄福丸 大栄丸	大栄丸
弘化 2年	1845	壽福丸	壽福丸
5年	1848		加福丸
嘉永 1年		寶求丸	
4年		久宝丸 宝求丸	
5年		宝寿丸 加福丸	
安政 2年	1855	伊勢丸	伊勢丸
6年			宝栄丸
万延			
文久			
元治			
慶應 3年	1867		永寿丸 永徳丸

太字：新潟県出雲崎と島根県浜田間を航海している。北前船であるとは明確でないが、廻船していることが解る。また同じ年代に複数の船名があり、複数の船を所持していたことが解る。

# 『由良って』

## 『こんなもの作れるんだ』Ⅲ

山下 剛 敏

この夏は、また一段と暑さの厳しい季節でした。私の知り合いにも一部、普段は元気な方でも体調を崩していました。天候

くならないため、少し取り上げました。今回は、『トマト』についてです。

はと言えば、局地的な豪雨で災害の起こる地域も多かったですね。その殆どが滅多に無い地域で起こっています。この由良では、家が壊れたり流されるような大きな災害は、本当に幸いなことに歴史上記されていないようです。ただ、少し上流になると大変な災害の歴史が多く残され、それを糧に由良川の治水が施され、偉大な自然と住民が正面から向き合ってきた事が分かります。

トマトは由良でも、畑をお持ちの方は多く作られている印象です。種から苗を作るのは、非常に手間がかかり難しい作業ですが、種苗屋さんやホームセンターに行くとき、だいたいゴールデンウィーク前には店頭で苗が並び始めます。

簡単なのですが、一般的な育て方をご紹介します。

### ① 苗以外に揃えるもの

石灰、堆肥（牛ふん・鶏ふんなど）、ワラ又はマルチ、支柱（苗数に応じて数本）、支柱に括る紐、

野菜用化成肥料又は有機肥料。

### ② 土壌を作る

植える面積へ、薄っすら土が隠れる程度に石灰（有機石灰だと堆肥も一緒に混ぜて植付けもすぐにできます）を撒き、その後、堆肥も撒いて耕して混ぜます。畝（ウネ）を幅40〜50cm、長さは苗の数に合わせて作る。

### ③ 植え付け

苗をポットから土ごと取り出し、その形ほどの穴に埋めて、



土を軽く被せたら倒れない程度に周りを押さえる。たっぷりの水をやり、手に入れば根元に藁を敷いてやる。マルチを利用する場合は畝に掛けてから穴を開けて埋めてやります。

最後に支柱を立てて、枝と支柱を8の字結びで、ゆとりを持たせて紐で縛る。



ポイントは、主軸となる枝以外の脇芽（ワキメ）という下部に出てくる枝葉を小さいうちに取ってやり、一本だけ伸ばしてやります。成長してきたら、上部



でも紐で縛ってやります。

④追肥をやる

枝が伸びて大きくなつてくると、実が付き始めた頃に、畝の横を浅く溝を掘り、化成肥料又は他の有機肥料を軽く一握りほど撒いて、溝に土をかぶせると同時に根元へも土を被せて土寄せもしておく。マルチの場合は、液肥がお手軽にできると思いますが。

【注】根元の穴に直接肥料を与える「根やけ・ガス障害」という現象が起こりえる為、控えた方がいいです。

⑤収穫

トマトをヘタから切って採ります。サラダは勿論、加熱料理にも美味しいトマトです。

プロの方々が、特に重要視しているのは、『水やりの加減』だそうです。この加減で甘みの強いトマトができるようです。生産者の中には跡を継いだ息子さんが「なぜこんなに水をやらないんだ！」と先代から指摘されながらも、極限まで水を与えないことで甘味を引き出した話もあります。その為、下の写真のような屋根を付けるのも一つの手段です。

選び方では見た目の赤さが熟度。甘さの見極めは裏を見て、白い線が放射状に入っているものに多いそうです。

◎次回はキュウリです。

協力…宮津市まごころ市

組合生産者



令和3年度 宮津市立小学校・中学校人権標語優秀作品

関係ない それじゃいじめは なくならない 中学1年生

世の中は自分だけの ものじゃない 相手の思い 大切に 中学2年生

「助けたい」 自分の心に 応えよう 中学3年生

## テーマ “秋の思い出”

お話をお聞きし、役員が  
文章化したものもあります。

自分が小学生の時、小学校の運動会と地区の運動会が合同で行われるようになりました。子ども心に「すごいことしてるなあ」と思いました。

一番印象に残っているのは四部対抗リレーです。

近所のおばあちゃんが「総合優勝できても、四部対抗リレーで1位じゃなけりゃ意味あらへん」と言っていたのをよく憶えています。

(やっぱり勝ちたい)

秋といえば由良神社の例祭  
その中でも太鼓の稽古を子どもの頃は  
すごく楽しみにしていました。  
おじさん達が、腰の据え方から腕の振り方、目線までかっこよく太鼓をたたくを見て憧れました。かっこよくたくくコツを学び、うまくできたときに褒められてうれしくなりました。

(TSより)



平成7年 由良幼小秋の運動会  
綱引きで喜ぶ児童たち

秋といえばやっぱり祭りやな。  
由良神社の祭りの人出は今とは比べものにならへんかったで。ようけ屋台も出ておもちゃ買ったり、たこ焼きとか食べれるんも楽しみやった。  
大勢の人の前で奉納太鼓が打てた時は誇らしかったなあ。

(お祭り男)

秋になると思い出すのは、小学校のマラソン大会です。  
練習は1ヵ月近く走り、コースの試走もあって一生懸命走ったのを覚えています。  
本番では沿道にたくさんの人が出てきてくれて声援をもらえたことが、とても嬉しかったです。

(Runner)

若い頃から何度か阪神競馬場へ行きましたが、初めてわが子を連れて行ったのが秋。

その時、乗馬体験をさせたのですが「大人になった気分！」と馬上で意気揚々の様子に嬉しくなったのが忘れられません。

(一攫千金)

さつま芋Love♥の私の秋の思い出は芋掘り。

畑の手伝いなんて全くしないのに、芋掘りだけは成人しても手伝いました。芋掘りの時に必ず用意されていた大量のあんパンも楽しみの一つ。

色気より食い気全開の青春時代でした。(食いしん坊万歳!!)



今年も台風が接近してきましたが、当地方では大変な被害がなく一安心。

小さい頃、大木が強風で倒れそうに揺れているのを雨戸の隙間から見て恐怖を感じていたが、台風が通り過ぎると嘘のように穏やかでした。

ここ近年は、由良川の氾濫でバスが浸水した2004年(平成16年)の23号台風、我が家の屋根の一部が吹き飛ばされた2018年8月の20号台風、わずか1か月後の24号台風では家の横の川が氾濫し坂道が川となりました。

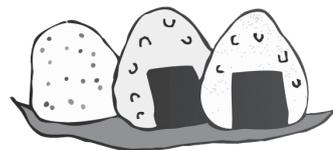
年々、台風の怖さを凄く身近に感じます。

(m・yより)

小学生の頃、稲木に登り刈った稲を親が投げて稲木にかける手伝いをした思い出があります。段々と上に登って行くのがおもしろく、一番上まで登れた時は怖さより満足感がありました。

その後、あぜ道で親戚のみんなと食べたおにぎりはおいしかった。

(コスモス)



約5年前に、この丹後由良で暮らし始めて、初めての秋に由良神社例祭の奉納太鼓を見た。足を開き、腰を落とした低い姿勢で舞いながらの勇壮な姿、格好良かったなあ!!

(mより)

秋といえば、10月から始まる太鼓の練習でした。他の地区に負けないように練習したのを思い出します。

10月10日の当日に皆からほめられた時はうれしかったです。

(ペンネーム ワイ)

### 秋

もみじ公園の紅葉が年々きれいになってきます。トイレの使用も禁止、自動販売機もなくなりましたが、休憩されているドライバーのいこいの場所になっています。

オリーブも実り、みかん、柿もおいしそうです。

秋を楽しみたいと思います。

(M)

秋の思い出といえば、やはり“祭”ですね。

わが地区は今年も神事だけで、残念ながら太鼓の音が聞けませんでした。遠くに他地区の祭りばやしを聞くと、さみしい気になりました。

来年こそは、完全復活をめざします。

(Y.H)

### 地区対抗運動会

近所のおじさん達の応援が凄かった。

熱い応援、行き過ぎた応援、

でも、皆 笑顔であった。

そんな地区対抗運動会が今は懐かしい。

(乃)

秋の思い出といえばやはり運動会です。コロナの影響もあり近年は目にすることも少なく寂しい限りです。また、各地で盛大に開催される日が来る時を待ちわびているこの頃です。

(K)

たくさんの「秋の思い出」ありがとうございました。  
この記事が話題のきっかけとなれば嬉しく思います。

次回177号（令和5年3月発行予定）のテーマは

## 「たびだち」

門出、新たな出発、旅、松山千春の曲“旅立ち”など……何を思いますか？

### 〈編集後記〉

今回のテーマ投稿のお題は、「秋の想(OMI)」。

美味しいものをたらふく食べ、気になっていた本を数冊買って読書三昧……が私にとつての秋です。

今秋は、各地で様々な行事が開催され、少しずつ賑わいが戻ってきたように感じます。厳しい寒さが来る前に、美食と読書だけでない、心に残る秋の思い出をつくりたいなあと思う今日この頃です。

(記・川崎)



たわわに実った柿